

介護予防事業の推進

後期高齢者の増加と介護保険制度の定着等により、介護サービスの利用者が増加傾向にあり、高齢化率がピークに達する平成26年度まで、さらに利用が延びていくことが予想されます。

このため、本年度を「大館市介護予防運動推進元年」と位置付け、介護予防プランを策定するとともに、このプランに基づいて事業を実施します。さらに、秋田県高齢者健康プログラムのモデル地区を設定し、認知症サポーター講座の開講なども予定しています。

市税等の収納状況と未収債権対策

一般税の18年度分は、約7億2100万円が納付され、税収額としては前年度比約4億7700万円の増となりましたが、滞納繰越分を合わせた未納残高は、前年度比約5400万円増の5億7800万円余りとなりました。

国保税は、現年度分の収納額が約19億8900万円で、前年度比約6900万円の増で、滞納繰越分を合わせた未収残高は、約2100万円増の6億400万円余りとなっています。

また、一般会計と特別会計を合わせた税外収納金は、滞納繰越分を合わせた未収残高が、前年度比約700万円増の約1億200万円となっています。なお、現年度における市税及び国保税の収納率は、速報値で県内13市中、にかほ市に次いで2番目の高い率です。



小柄沢墓園増設墓地の供用開始

次に、未収債権の対策として、平成20年度から国保税と介護保険料の納期を8期に増やし、納付期間を延長するための条例改正案を本定例会に提出しています。さらに、県と協働で行う直接徴収を本格化するほか、年度内にインターネット公売システムを構築するとともに、差押処分としての家用車のタイヤロックについても検討します。一方、税外収納金の整理率の低下から、「支払督促」や「訴えの提起、調停」など、法的措置を集中的に指揮、実行する新たなセクシヨンの設置や徴収方法の強化を検討中です。

小柄沢墓園の墓地増設工事が終了し、使用希望者を募集したところ、規制墓地250区画に対して318人、普通墓地

84区画に対して96人の応募があり、8月21日に公開抽選を実施しました。今回の応募状況を見ると、小柄沢墓園に対する市民の皆さんの需要は、依然として高いと判断されますが、使用可能な区画がある十瀬野公園墓地や小森山墓地公園、田代墓地公園の情報を積極的に提供するとともに、小柄沢墓園の拡張も検討したいと考えています。

酷暑による熱中症・脱水症被害

この夏の酷暑のため、8月12日から26日までの間に、本市でも4人の高齢者が熱中症と見られる症状で死亡するなど、憂慮すべき事態となりました。

市では、ホームページに警戒情報を掲載するとともに、行政協力員や民生・児童委員、保健衛生推進員のほか、各介護施設等のヘルパーの方々にも高齢者世帯など全ての要援護者の安全確認などをお願いしました。ご協力いただきました皆さんには、迅速な対応をしていただき、深く感謝申し上げます。

I P 電話の実証試験結果

市役所本庁舎では、この6月から25カ所にI P 電話機を設置し、実証試験を行ってきました。

その結果、使用感が従来の電話とほぼかわらないことや、比内、田代両総合支所等への内線通話も可能であることを確認しました。また、導入や設置などの初期費用や維持費用も抑えることができるため、行財政改革を進めるうえでも望ま

しいシステムであると評価しました。これらのことから、両総合支所を含めた庁舎でI P 電話を導入したいと考え、本定例会に係る予算を計上しています。

ゼロダテ大館展

「ゼロダテノ大館展2007」が8月10日から18日までの9日間にわたって開催され、大町商店街の18カ所の空き店舗を活用した美術品の展示やストリートライフ、秋田杉を使用したミニ二いかだレースなど、期間中、延べ8千人の来訪者があったと発表されています。

本市としても、開催費の助成や募金活動、広報紙でのPRなど、可能な限りの支援を行いました。今回の成功の要因は、やはりマンパワーであり、5月の連休から準備されたスタッフや実行委員、市民ボランティアの皆さんには、改めて敬意を表します。

そのほかの報告

- ・環境マネジメントシステムの登録維持
- ・第40回大館大文字まつり
- ・大館市南土地改良区合併予備契約の調印締結
- ・都市計画マスタープランの策定
- ・比内ベニヤマ荘の源泉ポンプ故障と復旧
- ・田代地域の夏季イベント
- ・秋田わか杉団体
- ・市立総合病院増設建築事業
- ・市立病院敷地内での全面禁煙と総合病院での禁煙外来開始
- ・公共事業の進捗状況